夜「口笛を吹いてはいけない」「爪を切ってはいけない」

「夜、口笛を吹いてはいけない」「夜、爪を切ってはいけない」という言い伝えを、多くの人が聞いたことがあると思います。夜に口笛を吹けば「蛇が来るよ！」と言われ、夜に爪を切れば「親の死に目に会えないよ！」と言われました。子どもの頃にそんな恐ろしいことを言われてしまったら、どんな子どもも信じてしまいます。しかし、なぜそんな風に言われるようになったのか知らないまま‥という人が多いと思います。

まず、夜に口笛を吹くと現れるものは、地域や家庭によって異なるようです。 多くの場合、「蛇が出る」と言われていますが、他にも「泥棒が来る」「幽霊やお化けが出る」「人さらいが来る」「嵐が起こる」など、あまりうれしくないものが現れます。また、インドの蛇使いは、笛を使って蛇を操ります。そのため、「笛を吹くと蛇が操れる」⇒「口笛を吹くと蛇が集まってくる」と言われていたようです。口笛が夜に限定されているのは躾（しつけ）の意味合いが強いそうです。夜に口笛を吹くのは近所迷惑となるため、子どもが怖がるように「蛇が出るよ！」ということで、口笛を吹くのをやめさせていたのです。さらに、昔、泥棒や人さらいが悪事を働くときの合図が、口笛でした。口笛を吹くとその家に泥棒が入ったり、その家の子どもをさらったりされると考えられていたそうです。

次に、夜に爪を切ると「親の死に目に会えない」とか「早死にする」と言われます。理由は諸説あり、有力な説として「夜・爪」＝「世・詰め」＝「世を詰める」となるので、早死にしてしまうと言われていたそうです。自分自身が早死にするだけでなく、自分が親より先に死ぬということは「親の死に目に会えない」ということになります。また、今のように爪切りの道具がない時代は、小刀やハサミなどを使って爪を切っていました。当然電気もない時代ですから、夜はロウソクのような小さな灯りを頼りに爪を切ることになります。明るさが十分ではない場所で刃物を使うことはとても危険で、親から授かった体に傷をつける恐れがあります。そこで、そんな親不孝者は親の死に目に会えないと戒めているのです。

古くから言い伝えられていることは、先人の知識や経験がもとになっています。「口笛は近所迷惑だからやめなさい」というよりも「蛇が出るよ！」と言われた方が、子どもは恐ろしくなってやめてしまいます。同じように「夜の爪切りは怪我の元だからやめなさい」よりも「親の死に目に会えないよ！」と言われた方が効果がありそうです。子どもたちの躾のために、先人が知恵と経験から作り出したのが、この２つの言い伝えなのですね。